

令和8年度第1回大船渡市観光ビジョン推進委員会 議事録

【日 時】 令和8年6月4日（木）午後2時30分～午後4時20分

【場 所】 大船渡市役所 地階大会議室

【出席委員】 委員12名中9名出席

（委員の過半数が出席しており、設置要綱第6条第3項の規定により委員会成立）

一般社団法人大船渡市観光物産協会 事務局長 近江学

一般社団法人大船渡地域戦略 理事長 志田繕隆

大船渡商工会議所 課長補佐 猪股司 ※午後3時35分頃退席

岩手県飲食業生活衛生同業組合 大船渡支部 副支部長 佐藤圭二

椿の里・大船渡ガイドの会 会長 小川廣文

おおふなと海鮮まつり実行委員会 代表 及川廣章

岩手開発産業株式会社 プロジェクトマネージャー 中村純代

LOVE大船渡プロジェクト実行委員会 実行委員長 佐々木陽代

岩手県沿岸広域振興局経営企画部 大船渡地域振興センター 地域振興課 主査 大槻康幸

《事務局》 観光交流課 舞良課長、松川課長補佐、佐藤係長、村上係長

1 開会 司会：舞良次長

2 委員紹介

3 議事

(1) 令和7年度取組実績及び成果指標実績について

第2次観光ビジョンについて、最終年度である令和7年度までの事業実績について報告。

⇒ 今回の資料をもって、第2次観光ビジョンの実績とすることを確認。

(2) 第3次大船渡市観光ビジョンの策定について

第2次観光ビジョン実施期間の実績と課題等を踏まえ、第3次観光ビジョンを策定するまでの経緯や課策定する意味等を改めて共有し、4つの基本方針、18の基本施策と推進体制を確認。

- ・観光客を単に増やすだけでなく、地域経済効果や交流・関係人口の拡大、シビックプライドの醸成などを目的としており、官民一体となって取り組むための指針となる。
- ・基本方針1に掲げる「観光で稼ぐ地域づくりの推進」を大目標と捉え、DMOによるデータに基づく観光マネジメントを強化し、付加価値の高い観光商品造成する。その他3つ基本方針は、効果的な情報発信、受け入れ体制強化、広域連携を進める。
- ・これまで、市はイベント屋のような存在となっていたが、今後は推進体制を改める必要がある。DMOがデータを活用した地域観光マネジメントを行い、市が観光行政に係る政策立案やシビックプライド醸成を図り、データに基づくターゲットを仮定し、観光協会や事業者は観光誘客を行う体制を目指したい。

【質疑】

（委員） 体験プログラム等の利用者数の対象に、みちのく潮風トレイルの利用者数を加えてはどうか。

⇒（事務局） トレイル歩行者数のカウント方法が確立されていれば、追加も検討する。

（委員） 夜のイベントや有料イベントについても、市のSNSで発信してもらうことはできるか。

⇒（事務局）積極的に情報発信を進めるつもりだが、市の SNS で発信する内容は、公益性等を考慮が必要となる。一方で、観光情報発信の一元化を図るため、市から観光物産協会に観光情報発信業務を委託していることもあり、協会の SNS ではリツイートなども含めて情報発信できる体制にある。

（委員）市がイベント実施に時間を取られて、やるべきことができないのは課題と捉える。観光協会や観光事業者がもっと主体的に動くべきではないか。

(3) 令和 8 年度年間計画について

事務局が把握する年度計画を共有のうえ、志田委員（地域戦略）から、市への来訪者データ分析に基づいたターゲット像についての説明が行われた。DMO は、地域の宿泊施設と市街地の潤いのために「1 人旅や出張客」をターゲットとして設定し、旅行者の動向データを取得しながら施策を検討していく方針を示した。

- ・市の考え方としては、一過性のイベントに時間をかけるのではなく、日常的に集客できるような地域づくりをすることにシフトし、ターゲットを明確にしたうえで、事業の選択と集中を行いたい。
- ・今後の推進委員会は、単なる実績報告の場ではなく、「次は何をやるか」を前向きに議論・共有する場に変えていきたい。

説明後、各委員より、それぞれの事業等の現状と課題、ターゲット選定の考え方、今後のビジョンの進捗確認の在り方について意見交換を行った。

【質疑・意見交換】

（委員）過去の推進委員会は実績報告のみで終わっていた。行政任せにするのではなく、具体的な夢やビジョンを語り、民間も含めてどう動くべきか、次へのアクションを議論する場にすべき。震災から 15 年以上が経過し、震災学習利用者も減少傾向にあり、解散の危機にある。

（委員）水産物の水揚げの減少により海鮮の提供が難しくなっている。また、最近、夜のまちに活気無い印象にあり、市に泊まる理由づくりが必要である。100 年以上続く朝市に携わっているが、出展者や来訪者が減少傾向にあるが、とても貴重なものなので、復活と宿泊者増に繋がる可能性について模索したい。

（委員）最近、市民も含めて夜で歩く人が減っている。はしご酒イベントや、昼のイベントに参加すると夜に使える割引チケットを配布する事業など、民間の自分たちが主体となった取り組みを進めていきたい。

（委員）情報発信はやみくもにするのではなく、ターゲットを絞り込むべきではないか。イベントカレンダーは市 HP にアップし、随時更新してもらいたい。委員会資料は、オンラインで随時共有できる仕組みが欲しい。

（委員）イベント重複日が多いため、イベント実施日を散らすことができれば、宿泊の一極集中を分散することができ、宿としてはありがたい。市民が大船渡の良さや魅力を感じ、意識を高め、市民自身が地域の魅力をアピールできる存在となる必要がある。

（委員）津波注意報などが出た際のマイナスイメージを払拭するため、安全性の「安心感」をアピールすることが重要。また、自身も大船渡の外に出て様々なことを経験し、観光客の視点を持つことも必要。

（委員）津波注意報・警報発令時における、防潮堤内外での営業・避難の基準が分かりにくいいため、再度説明いただく機会が欲しい。

（事務局）今後の委員会は、事業報告よりも「次は何をやるか」について話せる場づくりに努めたい。事業報告については、オンラインストレージを使った情報共有を検討する。避難基準の考え方については追って回答する。

(4) その他

特になし

4 閉会